

ウ、教材と児童とのかかわり

以上の視点で、教材（楽曲）についての理解を深め、歌唱指導のねらいをよりの確にしたいものである。

(3) 教材研究の実際－「教材カード」の活用－

歌唱指導において、児童の身につけさせたい教育内容をどの教材や教材群で指導すればよいかを見極めるためには、「教材カード」を作成して、常に活用できるようにしておくことと便利である。

次の表は、小学校5年生の教科書から「荒城の月」を例に取り、「教材カード」にまとめたものである。

(4) 「教材カード」と学習指導の実際

教材研究における「教材カード」の作成についてふれたが、学習指導の実際の場面でどのように活用していくか、その関連について表してみたい。

楽曲による題材の展開例として、「荒城の月」を題材とした歌唱指導を進めるに当たり、次の学習指導案を作成した。この指導過程の中で「教材カード」にまとめられた内容がどこで生きて働き、かかわりをもつかについて示したものが、次の「⑤学習の展開」（表3）である。

（「教材カード」と「学習指導案」の□の番号は同じものを指している）

< No. 〇〇 >

①教材名	荒 城 の 月		②曲態 独唱曲、2部形式・イ短調・4/4拍子	③出典 東京音楽学校編「中学唱歌」（明治34年）
教材の背景	④作詞者 土井晩翠（つちいばんすい）1871～1952 仙台生、東大英文科卒・旧制第二高等学校（現東北大学）の教授をしながら詩人として活躍、詩集（天地有情・曉鐘）	⑤歌詞内容		「荒城」のモデルは、仙台の青葉城か会津若松の鶴ヶ城（作詞者）、あるいは大分県竹田の岡崎城（作曲者）だったと思われる。荒城と月を対比させ栄枯盛衰の世の姿をしみじみと歌っている。
	⑥作曲者 滝廉太郎（たきれんたろう）1879～1903 東京生、東京音楽学校（現東京芸術大学）卒業後ドイツへ留学、病気のため帰国し25才で死亡	⑦成立事情		「中学唱歌」への応募作品で、原曲は単旋律で無伴奏であった。後に山田耕作がこれの改訂・編曲を行い、今日では編曲（山田）の方が広く歌われている。原曲はロ短調、編曲eis→e、♩→♪
音楽の分析	⑧音素材 声、ピアノ共に全体として中・低音域を多用している。声とピアノは比較的多く独立的に用いられている。2小節ごとの<>による音力法がしばしば表れる。	⑨リズム 4分音符の連続するリズムパターンがあってアウフタクトのフレーズはでてこない。フレーズの終りによ♪の形が多く自立つ。♩=72の速度に変化は少ない。	⑩旋律 音域は（  ）の10度eの音が多用されている。2小節1フレーズの終りの音に落ち着きを感じる。山型の旋律型が多い。	⑪和声 各フレーズの終止はIV→Iの動きが感じられる。全体的にIの和音が支配的である。
	⑫形式 A (a, a') B (b a') の構成をとっているが、bの素材はaの中含まれている。自然な流れて、ことさらクライマックスの意識はないと思われる。			
教材評価	⑬音楽的価値			⑭教育的価値
	現在多く愛唱されている山田耕作の編曲によるものは特にすぐれた作品である。原曲のもつ強い調性感（機能）を取り除いて、音楽全体に非西洋的性格で日本的な情感や味わいをかもしだしている。			旋律と伴奏とのかかわり方に注目 旋律構造の理解、編曲のあり方 声楽的な声のコントロールと持続 詩のイメージと音楽のイメージ
関連教材	⑮滝廉太郎の作品「箱根八里・花」「荒城の月」の編曲作品（下総院一、平井康三郎、池辺普一郎） 日本歌曲の旋律と伴奏という視点から山田耕作の歌曲（赤とんぼ、砂山）			⑯旋律構造からは「喜びの歌」ベートーベン 声楽的（音声の持続）には♩の多用として平井康三郎「平城山」
指導留意点	⑰発声法 良い姿勢で歌わせる。共鳴の工夫をさせる。低音域を地声にしない。フレーズのしまいの音がふらつかないように。4小節目「はなのえQ」Hum（ハミング）の共鳴♪or♪は短くならないように。	⑱指揮法  表情的なレガートの打ち方。曲線的で円滑な連続運動やわらかな予備運動 各フレーズの4拍目、左手で4分休符を示す。左手で<>の表現を入れる。		
	⑲の観評点価 1 歌詞の内容を考えて歌う。 2 正しい音程やリズムで歌う。 3 フレーズを感じ取り、レガートな表現をする。 4 曲想を生かして表現する。	5 自分の声の響きを感じ取って頭声的発声で歌う。 6 正しい腹式呼吸で歌う。 7 旋律の美しさを味わって表現する。		
⑳資料	図書 金田一春彦・安西愛子「日本の唱歌」（上）明治編（1977）講談社文庫 レコード 東芝「滝廉太郎作品集」（1979）T P - 60329 楽譜 「滝廉太郎全曲集」音楽之友社			

（表2）

教材カードの例